

榎原市立図書館だより

平成20年7月10日発行
第12号

榎の樹

特集:

教育長にきく

追悼
さようなら 石井
桃子さん

目次:

特集	2～
	～5
図書館員の本棚	6
お知らせ	7
図書館の利用状況	8



教育長にきく



吉本 重男(よしもと しげお)
昭和48年、橿原市入庁。企画調整部長、行革・都市再生推進本部事務局長を経て平成18年、理事就任。本年3月25日より橿原市教育長。

橿原市では、昨年度において「子ども読書活動推進計画」を策定し、今年度からは、その実施に向けて、関係部局で連携をとりながら取組みを始めております。現在、点検・評価を行うための『橿原市子ども読書活動推進会議』の設置について準備を進めているところであります。

この計画の実施に際しては、法律や計画の目指すものをしっかりと再認識しておく必要があることは言うまでもありません。そういった観点から、計画の策定にアドバイザーとして関わっていただいた本市図書館運営委員の益田忠夫さんを講師にお迎えし、“子どもの読書活動推進”の意義について、ご講演をいただく予定です。

図書館は、昨年度において、1階の絵本コーナーをリニューアルし、好評を得ておりますが、より身近に感じてもらえるように、更に工夫をしていきたいと思っております。また、健康増進課と連携し、ボランティアのご協力を得て、4月の1歳6ヵ月児健診よりブックスタートを開始しました。健診にいられた保護者と赤ちゃんに、それぞれ対面式で絵本を読み、ブックスタートの意味をお話すると、皆さん熱心に聞いていただけるとのこと、ご家庭での読書活動推進の基礎となればと期待しています。一方、学校図書館における情報化への取り組みなど、学校教育の中での試みもすでに始まっています。

私自身、読書好きなのだろうと思っておりますが、子どもたちには、とにかくたくさん本に触れてほしい、どんな分野でもいいからアトランダムに読んで、その中から自分に適したものを見つけたいと思っております。そのために大人がいろいろな本と出会わせることは大事ですが、それを子どもにおしつけるのではなく、できるだけ子どもに選ばせるということが大事だと思います。好きな本が見つかるまで、子どもの興味や関心を尊重することが大事です。また、ご家族の皆さんもそれぞれ本を読むことで、日頃のコミュニケーションのきっかけともなり、相乗効果を生むと思っております。

私自身の子どもの時代の読書体験では、中学生のときに読んだ『三国志』が最も強く印象に残っています。全十巻で大変疲れたという記憶と共に……。

市の財政状況が大変厳しい中ではありますが、関係部局や各学校等においてそれぞれ連携を強め、工夫をしながら、進めていきたいと考えております。ご理解とご協力よろしくお願い申し上げます。

よろしければ、生年月日と血液型、家族構成をお教えてください。

昭和24年8月1日、AB型です。家族は妻と1男1女です。

ご趣味は？(幾つでも結構です。)

ウォーキングと読書です。大阪の下町や大和川の堤なんかを、よく楽しんで歩きます。

読書のペースはどのくらいですか？

電車通勤のため、車内で過ごす時間などを活用して、週に2冊ぐらい読みます。年間では100冊ぐらいになるかもしれません。今度、図書館がある万葉ホールに職場が移り、実はとてもうれしいのですよ。

好きな作家は？

宮城谷昌光さんです。歴史を通過していった人物群像を描いた作品に興味があります。私と同じ大阪出身ということで、司馬遼太郎さんのエッセイなんかも、読んでいて面白く感じますね。視点に独創性があると思います。

本や読書に意義があるとすれば、どのようなことでしょうか？

若い世代と話していて気付くのは、彼らの多くには尊敬する人物や目標となる人物がないということです。私が若かった頃には、身近な年長者や先輩の中に、尊敬できたり、目標となる人物がいましたが、今は少し事情が違うようです。モデルやお手本とすべき人物に出会うことが難しい時代になっているようです。だとすると、読書を介して、過去の人物や外国の人物に出会い、学ぶことはとても意義深いことと思います。

この一冊(一番感銘を受けた本など)といえば？

「晏子」(宮城谷昌光 著)です。私自身が中間管理職になってからは、特に身の処し方という点について、折々に考えるヒントとしてきました。

座右の銘は？

「民主主義は欠陥だらけであるが、他のどの制度よりもすばらしい」 座右の銘ということではありませんが、行政マンとしてこのことを念頭に置き、公務に努めてきました。

図書館に対しておっしゃりたいことはありませんか？

コスト意識や住民ニーズを常に念頭に置きながら、図書館としての理念を具現化してゆく方法を模索しなくてはなりません。地域社会の要請に適切に対応してゆくことで、図書館自身の存在意義を周囲にどう説得してゆくことができるかが、今後より重要になってくるのではないのでしょうか。

学生の頃、大阪市大図書館や大阪市立天王寺分館にご自身もよく通われたとのこと。時代の変遷に関係なく、読書から得られる励みや慰めもまた、人間がこころ豊かに生きてゆく上で欠かせないのではないか、という発言が印象的でした。(に)

No
Image

晏子
宮城谷昌光 著
新潮社 新潮文庫

No
Image

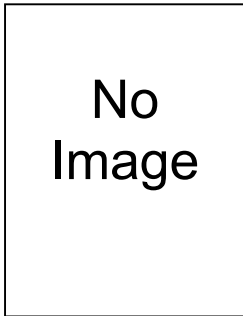
三国志 上
羅貫中 著
岩波少年文庫 他

No
Image

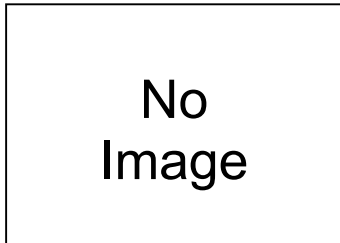
ある運命について
司馬遼太郎 著
中公文庫 他

追悼

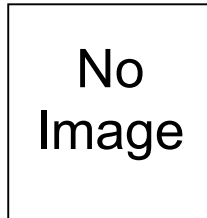
さようなら 石井桃子さん



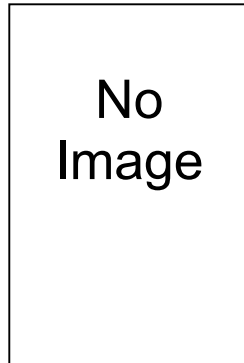
(238回)
ピーターラビットのおはなし
ビアトリス・ポター
福音館書店



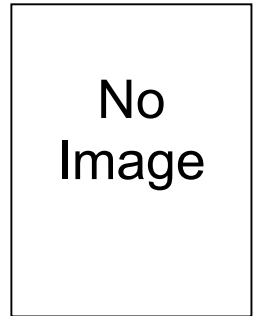
(237回)
こすずめのぼうけん
ルース・エインワース
福音館書店



(371回)
こねこのねる
ディック・ブルーナ
福音館書店



(55回)
クマのプーさん
岩波書店

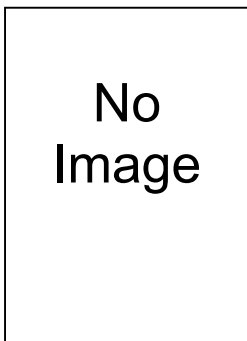


(133回)
ありこのおつかい
福音館書店

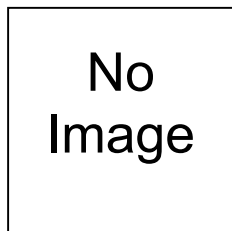


(いしい ももこ)
作家、翻訳家。1907年、埼玉県生まれ。日本女子大学英文科卒。『ノンちゃん雲に乗る』(第1回文部大臣賞)など、著書多数。1993年、日本芸術院賞。1995年、読売文学賞。1997年、日本芸術院会員。2008年、朝日賞。同年4月3日、逝去。

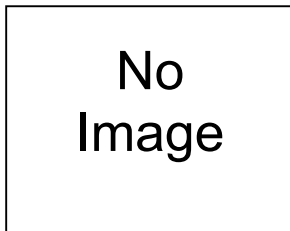
※(回)は、平成20年6月20日現在での当館におけるのべ貸出回数です。(複本を含む合計)
ただし、シリーズ本については、最も回数の多いものを探りました。



(189回)
かえるのいえさがし
福音館書店



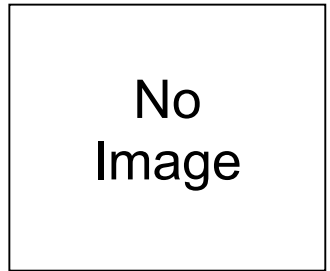
(580回)
うさこちゃんのたんじょうび
ディック・ブルーナ
福音館書店



(132回)
せきたんやのくまさん
フォービ・ウォージントン
福音館書店



(60回)
魔法使いのチョコレート・ケーキ
マーガレット・マーヒー
福音館書店



(169回)
ちいさなおうち
バージニア・リー・パトーン
岩波書店

石井桃子さんは、多くのものを残したひとだった。海外作品の紹介者として、あるいは児童文学の編集者や実作者として、世に送り出した図書の冊数のことを言うのではない。公共図書館の整備がまだ今日ようではなかった昭和30年代前半、自宅を子ども文庫として開放し、それは子どもの読書活動のモデルのひとつとなった。子どもたちに読書の種をまこうとする石井さんの姿に、多数のひとびとが影響を受けた。学校教育や図書館や地域活動の現場を担ったひとびとの記憶に、石井さんは印象深いものを多く残していった。

石井さんが携わった「かえるのいえさがし」という小さな絵本がある。全部で27ページしかない、とても小さな本だ。近刊の色彩豊かな絵本群に慣らされた眼には、挿絵も装丁もあまりに古風で、ただ地味なだけの一冊に見えてしまう。だが、その読後感は小さくはない。

春夏と、楽しい時間を過ごしたカエルの親子が、秋を迎えて越冬のための巣穴を探さなければならなくなる。ところが、出遅れた親子には、もうひとつの穴も残されていない。途方に暮れた果てに、親子は大きな穴にたどり着く。だがそこは、恐ろしい大蛇の棲み家だった。震えながら事情を打ち明けた父親ガエルに、大蛇は告げる。「暑い夏ならば、おまえたちを取っても食おう。だが、冬の間は、へびもカエルも一緒に土の中で眠るのだ。来年の彼岸まで、みんなで眠るとしよう……」大蛇に招かれた穴の中で、生き物たちが身を寄せ合って深い眠りにつくところで、物語は唐突に終わる。

その後、春が来て、生き物たちはどうなったのだろうか。親子は天敵より一足早く目覚めて、首尾よく穴から逃げ出すことができただろうか。それとも、空腹で目覚めた大蛇の餌食となってしまったのだろうか。もしかしたら、大自然の厳粛さの前にはへびもカエルも無力でしかなく、どちらも冬を越すことができなかつたかもしれない——。もっとも、絵本はただ沈黙で応えてくれるだけだ。そして、沈黙によってしか伝えることができない冬の眠りのように深いものが、読後感に残される。

石井さんが多くのものを残すことができた理由のひとつは、常に“みつめるひと”だったからではないだろうか。まだ自身が子どもだった頃から百歳を越えた最晩年に至るまで、石井さんは様々なものを見つめてきた。敗戦、海外の進んだ読書環境、日本の子どもたちを取り巻く現実、そして生と死の問題……。

老齡を迎え、子どもたちひとりひとりの顔と名前を覚えられなくなった時、石井さんは手塩にかけて育んだ子ども文庫を公共図書館に引継ぐ決心をした。子どもをみつめ続けることで、最後まで自身の内部に子どものこころを持続し得た、稀有なおとなだった。

(児童班)

お知らせ

樺原市立図書館では、7月2日から8月31日まで、所蔵図書の夏休み特別展示「夏休みに読んでほしい本展」を1F展示コーナーでおこなっています。読書のためのまとまった時間をつくるのに最適なこの時期、特に子ども達に手に取っていただきたいおすすめ図書を、児童サービス担当の司書が中心となって選書しました。もちろん、石井桃子さんゆかりの良書も多数含んでいます。ご来館の折は、ぜひご覧ください。

図書館員の本棚(3)

「死者の書」

折口 信夫 著

(おりぐち しのぶ)

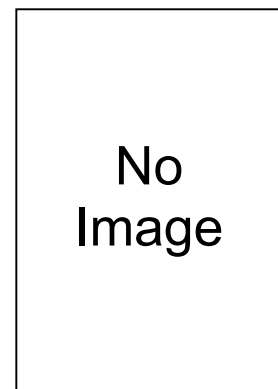
1887～1953 大阪生まれ。國學院大学・慶応義塾大学教授。国文学、民俗学、国語学などに独自の成果を残しながら、作家としても活躍。全集等の業績により、52年日本芸術院賞。

歌人釈迦空としても著名な作者は、学識豊かな民俗学的視点に古代幻視を重ねることで、他の同時代作家の追随を許さない独特な物語世界を創り出した。「した、した、した……」地下水の滴る音が石室の闇に響く中、当麻語り部の姥の呼びかけに応えるように、刑死を遂げた大津皇子の魂が蘇る——。持統期における政治悲劇と中将姫伝説に材を得た本書は、皇子を葬ったとされる二上山を日毎に望んで暮らしている者に、時として、静謐な哀調を届けてくる。

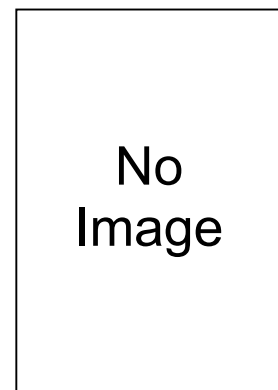
その日は、朝から梅雨明け直後の晴天に恵まれていた。母がすでに病院に向かったことは知っていたが、ダンボールに梱包した図書を公用車に積載すると、私は予定通り図書館を出発した。酷薄に過ぎるのではないかと逡巡しないわけではなかった。だが、もう疼痛をやわらげる処置しか選択肢がない父とは、すでに十分に語り尽くしてもいた。図書館員として働くことが決まった時、最も喜んでくれたのは父だった。仕事を終えて病院に向かう途上、まだ暮れきらない初夏の晴れた宵空に、紫色に染まった二上山が望まれた。病室に入ると、父の意識はすでになかった。薄く開かれた瞼の底で、もはや生者のものとは思えない白く濁った瞳がのぞいていた。

最終の利用者を図書館から送り出し、エントランスに施錠した後、私はカウンターに居残って業務日報を記す。そして静まり返った書架に並ぶ背表紙の群をふと眺める時、優れた図書は、すべて死者の書であることに気付く。読者を翻弄する生活の喜怒哀楽とは関係なく、一冊の優れた本は、本そのものの存在によって時間の淘汰に打ち勝ち、それを生み出した作者の寿命さえ超越して生き残ってゆく。折口作品を読み返してみる時、名著というものが必然として担っているそうした厳粛さに、改めて畏怖をおぼえる。

(へ)



死者の書
中公文庫 その他



折口信夫全集
第四巻 口訳万葉集
中央公論社

お知らせ

(1) 榎原市子ども読書活動推進計画 第1回推進会議

榎原市子ども読書活動推進計画が策定されたことを受けて、計画進捗の点検・評価を行ってゆくため、推進会議が発足します。

(2) 推進会議設立記念講演会 「榎原市子ども読書活動推進計画のめざすもの」

第1回推進会議の開催を受けて、元川西町立図書館長 益田 忠夫氏を講師に迎え、標記講演会を開催します。事前申込み不要。当日、下記会場に直接お越しください。

日時・場所 7月29日(火)午後3時より 榎原市中央公民館3F講堂

(3) 作品展示 「育児と読書」

出産や育児に関連した実用書や啓発書、エッセイなどを展示します。女性だけでなく、子育て中のお父さんも、ぜひお立ち寄りください。

場所・期日 2F展示コーナーにて 8月1日より9月末まで

(4) 手作り絵本展

日時 8月19日(火)、8月20日(水) 午後1時30分～3時30分

場所 かしはら万葉ホール4階 研修室2
講師 金尾 恵子 先生

参加資格 両日とも参加が可能な方

申込み 7月30日(水)までに図書館カウンターにて直接お申し込みください。

(5) 資料展示

リサイクル館かしはら **作品展 「夏の風物詩たち」**

例年ご好評を頂いている廃材をリサイクルした作品展を今年も下記のとおりおこないます。



ガラス工房 作製
ボトルクラフト

場所・期日 2F展示コーナーにて 8月1日より9月末まで

夏休み企画 「ちょっとこわいおはなし会」

夏休み期間の特別催しとして、「耳なし芳一」と「おいてけぼり」を取り上げます。通常なら入館できないはずの宵闇迫る時間帯、いつもとは雰囲気異なる静まり返った館内で、明治期に小泉八雲によって再発見された日本の伝説や奇譚の魅力を紹介します。

日時・場所 8月16日午後7時15分～ 榎原市立図書館内

対象 市内在住の小学生(3年生以上)。
成人の保護者の同伴を条件とします。

申込み 抽選で15組。7月25日(金)までに図書館カウンターにて直接お申し込みください。



檜原市立図書館

〒634-0075
檜原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-21-1011

http:
[//www.ksh-lib.jp/](http://www.ksh-lib.jp/)

編集後記

子ども文庫のひとびと

夏休みが始まった。これから8月の末にかけて、図書館は最も忙しい季節を迎える。自主学習や課題の手がかりを得るために、たくさんの小学生や中学生が来館してくれる。▼毎年繰り返される光景だが、当館が開館したのは平成8年。それ以前の子どもたちはどうしていたのだろう。その頃、本市には県立の小さな分館があるだけだった。近隣にも、図書館のない市町村が見受けられた。▼職務上、子ども文庫の方々と懇談する機会が多い。当館が開館するはるか以前から、公民館や自宅や様々な場所で、地道な活動を続けてこられた。Fさんもそのひとりである。▼「文庫にも、子どもたちが溢れた時代がありました。私市の図書館ができたこともあって、私のところでも今は以前のような賑わいはありません。でも、ある意味では、それで良いのです」▼Fさんの爽やかな表情に接していると、石井桃子さんの静かな風貌が脳裏をかすめた。自宅を子どもたちに開放しての文庫活動が、作家石井桃子の原点だった。▼子どもの頃に一冊の本と出逢い、読書好きとして成人した多数の人々の影に、Fさんのような無名の石井桃子さんが何人も存在したことだろう。(館長)

檜原市立図書館の利用状況(平成19年4月～20年3月末)

個人貸出について

新規登録者数	成人(16歳以上)	2,205	人
	児童(15歳以下)	1,191	人
	新規登録者数合計	3,396	人

貸出数	一般書	337,186	冊
	児童書	176,037	冊
	雑誌	27,209	冊
	図書・雑誌貸出合計数	540,432	冊

	ビデオテープ	34,679	点
	コンパクトディスク	32,575	点
	カセットテープ	1,548	点
	DVD(H19年12月より)	691	点
	視聴覚資料貸出数合計	69,493	点

個人貸出数合計 609,925 点

予約受付数	一般書	10,036	冊
	児童書	1,399	冊
	雑誌	1,582	冊
	予約数合計	13,017	冊

資料数について(3月末現在)

一般書(個人貸出用)	220,308	冊
児童書(個人貸出用)	57,432	冊
個人貸出用冊数合計	277,740	冊

一般書(団体貸出用)	8,107	冊
児童書(団体貸出用)	24,109	冊
団体貸出用冊数合計	32,216	冊

図書冊数合計 309,956 冊

ビデオテープ	3,838	点
レーザーディスク	690	点
DVD	107	点
コンパクトディスク	4,279	点
カセットテープ	696	点
視聴覚資料点数合計	9,610	点
雑誌	157	タイトル
新聞(官報、奈良県広報含む)	17	紙
CD-ROM	99	タイトル

表紙の写真

檜原市立図書館では、市庁舎見学の一環として、市立小学校の来館を受け入れています。落書の被害をうけた図書を小学生に示す図書館員。図書や図書館についての説明のみにとどまらず、モラルやマナーなどについてもお話しています。